

認知症になっても安心して暮らせる社会を

2022 FEBRUARY

No. 499

2

月刊 POLE-POLE (スワヒリ語)

ぼ～れぼ～れ

ゆっくり やさしく おだやかに



群馬県支部版

わたぼうし No.462

認知症の人と家族の会

理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助け合って、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

巻頭言



「東大教授 若年性アルツハイマーになる」を読んで

「東大教授 若年性アルツハイマーになる」(若井克子著)が講談社から上梓されたとの記事で、若井晋さんが亡くなったことを知りました。アルツハイマー病になったことは知っていました。本によれば、2001年にはその兆候があり、亡くなったのは2019年、約20年に及ぶ闘病とのことでした。

本にはかなり厳しい闘病の様子も綴られており、リスパダールという向精神薬も必須だったと述べられてもいます。しかし、信仰で結ばれたお二人は、アルツハイマーに対しても信仰の力で前向きに現実をとらえ、その都度乗り越えて来られたことがわかりました。若井晋さんは、私の高校の1年先輩でした。高校入学当時、部活入部の決断がつかず、練習を見つめていた私に入部を誘ってくれたのが、若井先輩でした。文武両道、大人びて、一歳でこうも違う人がいるものかと驚かされました。

「あの若井さんが！」という思いは消えませんが、今はただ、ご冥福を祈るばかりです。

目次

・ 巻頭言 「東大教授 若年性アルツハイマーになる」を読んで	1 頁
・ おたよりから	2 頁
・ 意味性認知症 (SD) について	2 頁
・ 寄稿 意味性認知症になった妻との生活	3 頁
・ へわが家の認知症ケア手帳 ²³	3 頁
・ 渡辺医院院長 (当会顧問) 渡辺俊之	4 頁
・ 報告 介護家族支援講座の開催	4 頁
・ 杉山孝博 Dr. の医学基礎講座の開催	4 頁
・ 編集後記	4 頁

これからの予定 (時間 10 時～12 時)

- 3月6日 (日) 洪川つどい 中央公民館
- 3月12日 (土) 伊勢崎つどい 文化会館
- 3月19日 (土) 館林つどい 中部公民館
- 3月27日 (日) 県央つどい 県社会福祉総合センター

介護家族支援講座 (10 時～16 時)

- 3月12日 (土) 高崎市南公民館

電話相談

群馬県支部 (群馬県からの委託事業)
認知症の人と家族のための電話相談

027 (289) 2740
本部フリーダイヤル
0120 (294) 456

おたよりから



3回目接種を一日も早く

コロナ感染の恐怖は認知症家族にとっては大きなものとなっています。ひたすら感染しない様にと生活の範囲を狭めて過ごしています。三回目のワクチン接種を一日でも早くと県のセンター利用を考えている所です。(接種券がまだなのです)

オンラインもありかな...

パソコンやスマホを使えさえすればこんな便利なツールはないと思います。遠方の方も参加して下さるのではないかと...

私も苦手ではあるのですが、「ZOOM参加あり」と研修内容に書いてあると参加してみようかという気持ちになるので、もしかしたらそんなふうになって下さる方がどこかにいて下さるかと思うとオンラインもあるのかなと思います。

気が抜けたような日々...

先月下旬、デイサービスの職員が小学生の子どもからの感染により新型コロナウイルスの感染者となり、利用者、職員が全員PCR検査を受けることになりました。幸い全員陰性で、保健所より濃厚接触者にも当たらないとの認定を受けたため、日曜日を含め3日間の休業で済みました。

しかし、その3日間を母が家でじっとしていることに耐えられず、私がトイレに行ったときに外出(徘徊)してしまい、1時間ほど探すことになり、その後もずっとイライラしている状態で、3日目にはどうにも対応が困難となりました。

仕方なくケアマネに相談し、ショートステイを利用することになりました。

まん延防止で受け入れ停止になっていましたが、PCR検査陰性であったため特別措置でした。ただし一度帰宅したら、次回がめどが立たないため2月初め現在も継続利用中です。

母の3回目のワクチン接種は2月中旬ですが、私には接種券がまだ届きません。

私は母がいらないぶん楽なのですが、人と話すこともなく、現在週に一度一時間ほど買い物に外出するくらいで、何か気の抜けたような日々を送っています。

「意味性認知症 (SD=Semantic Dementia)」について

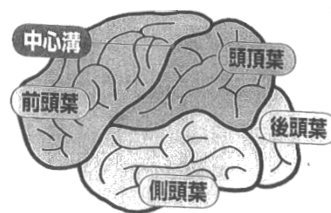
認知症の一つに意味性認知症という分類があり、説明も聞いたことはありませんでしたが、よくは理解できていませんでした。

1月のつどいで宮内さんのお話を伺いようやく腑に落ちた気がしました。宮内さんの奥様の症状を見つめる冷静な目と、やさしさの溢れる生活ぶりが素晴らしく、ご寄稿をお願いしたところ快くお引き受けいただきました。宮内さんの、ハグをしてやるのが一番妻の安心につながるようだと言った笑顔がまた素敵でした。

以下に、脳科学辞典の説明も紹介します。併せてご参照ください。

●意味性認知症とは●

前頭葉に比較的限局する左右差のある萎縮を有し、臨床的には意味記憶障害が前景に立つ臨床症候群である。65歳未満で発症することが多い。左優位萎縮では一般的物品(例:蜜柑、桜など)についての意味記憶障害を呈し、右優位萎縮では人物についての意味記憶障害を呈しやすい。一般物品の意味記憶障害では、その名前が言えない、名称を聞いても、そのものが理解できないという失語症状に始まり、その後次第に物品を見ても、触っても同定できなくなる。人物の意味記憶障害では熟知相貌の認知障害から始まり、よく知っているはずの人の顔を見ても同定できず、声を聞いても名前を聞いても同定できない。(「脳科学辞典」―脳科学分野の約千の用語を解説し無償で公開するサイト―より一部抜粋)



〈寄稿〉 意味性認知症〈SD〉となった妻との生活

高崎市 宮内威 83 歳



現在、83歳の私、79歳の妻との二人世帯の生活です。子供は娘二人、千葉と東京で、すべて成人した孫たち5人とそれぞれ生活をしています。

〈病状経過〉

妻は、2020年2月に前橋の老年病研究所付属病院の先生の診断によって認知症であることが告げられました。病名は「意味性認知症」というもので、脳内の国語辞典が壊れた状態ということでありました。

先生は「言語記憶障害で、歯ブラシを見せて中身はわかっていても言葉として「歯ブラシ」が出てこない、ボールペンでも用途はしゃべれるが、ボールペンが言葉にならない、というものである。これから徐々に進行するので家族・介護者が大変になると思われる。判断力はまだあるので今の生活を崩さないで続けてほしい」と述べられました。診療に至る半年前ぐらいから異変を感じていました。「長寿会の会議に行くから」「病院受診に行くから」「車の車検で出かけるから」等々、普通の会話であ

るが、「なにに？」や返答がなかったりしていました。50代前半からの難聴が進んでいるので聞こえないのかと、同じことを繰り返しても理解できないので、これはおかしい、普通ではないなど感じ、受診に向けて半年ぐらいに渡って、おかしい言葉、会話などをメモっておきました。このメモは診療の際に大変役立つと先生はじめ担当の専門職員に評価されました。

診断から2年半病気は充分進行してきましたように感じます。何より依存度が高くなっています。

○言葉では「歩いてくるね↓お風呂に入ってくるね」「取りに行かなくてはい物に行かなくてはい」「足が痛い↓ワクチン注射で腕・肩が痛い」「うどんがない↓食品の多くをうどんと言っている」「明るくなったね↓天気が良くなったね」「こんな具合で、野菜類から始まって固有名詞のかなりの部分が、言葉で言えなくなってきました。従って意志はなんとか通じますが、会話は全く成立しなくなってきました。言えないこ

と理解できないことから口数が徐々に少なくなってきました。言葉が出ないことは字もかけないことになりました。漢字はほとんど無理となっています。

○行動では「ウォーキング（一人でも可）」「掃除・洗濯」「お化粧品」「時間管理」「スーパー等のレジでの現金払い」は出来ています。ATMの利用・扱いが不安定となっています。3食の食事づくりは1年前から全くできなくなりました。私の最大の負担となっていますが、結婚以来の妻の労苦に感謝しながらやっています。



〈介護者として留意する介護の方向〉

① ↓生活のリズムをくずさないこと

7 時朝食 8 時半～10 時ウォーキング 12 時昼食 18 時夕食 19 時入浴 22 時～22 時半就寝の生活リズムを崩さないようにしています。1 日 2 回以上の「ハグ」をすること。笑顔と安心感に結び付いています。

② ↓しゃべらせること

理解できないことと、言葉が出ないから口数が減ってきています。ウォーキングしながら幼児のように手をつないで、声をそろえて数字を言ったり、曜日を言ったりしています。観音山の丘陵地を約7千歩、ウォーキングが一番楽しそうです。

③ ↓怒ったり怒鳴ったりをしないこと

これが一番難しい、分かっているも、つい大きな声が出てしまう。相手の言うことを全て肯定し、ゆっくり話してやることに最大の努力が必要です

④ ↓介護保険のサービスを利用すること

現在、居宅支援を週2日受けています。これからデイサービスやショートステイの具体化を図っていきます。高齢の介護者が倒れることは想定できません。ショートステイを体験することは急務となっています。

認知症患者を介護する家族の皆さんと経験を学び合いながら、ともに歩んでいきたいと思っています。

渡辺俊之の「わが家の認知症ケア手帳」② ネット情報うのみ禁物

渡辺医院院長（精神科医、当会顧問） 渡辺俊之



「父に認知症の薬を出さないでください。人を殺すかもしれないという情報がインターネットに出ていました」。認知症の A さん（80 歳）の進行を抑えるため、私が薬を出そうと提案すると、息子さんが断ってききました。私も気になって調べてみると、実際に起きた事件に、抗認知症薬が関係した疑いがあるとする文章がネットで見つかりました。確かに、抗認知症薬は興奮などの副作用が出る場合があります。適切に処方する必要がありますが、心配もあるでしょう。ですが、殺人などと結び付けて、最初から薬を避けるというのも考えものです。

今では、インターネットでさまざまな情報がすぐに得られます。信頼できる情報もたくさん見つかりますが、それと同時に「B という薬のせいで太った」「C という薬を飲んだら幻覚が出た」など、特定の副作用に関する否定的な書き込みもあふれています。医師にとって一番心配なのは、患者さんがネットで薬の副作用を調べ、不安や恐怖を感じてしまい、飲むべき薬までやめてしまうことです。

仮に、ネットの投稿者の体験が事実だったとしても、全ての人に当てはまるわけではありません。激しい副作用が出る薬もありますが、頻度は 0.1% くらい、ということもあります。

総務省の調査によると、テレビ、新聞、インターネット、雑誌の各メディアの中で、最も信頼度が高いのは新聞ですが、ネットの情報を信頼する人も 3 割ほどいます。ネットは簡単に情報を提供してくれる便利な存在ですが、頭から信じて飛びついてはいけません。大切なのは、信頼できるところを書いているかどうか、情報の発信源を確かめること。そして書かれている内容を読み飛ばして都合良く解釈するのではなく、正確に読み解くことです。

今では、インターネットでさまざま



報告

● 介護家族支援講座の開催

1 月太田会場、2 月前橋会場

1 月太田会場では、コロナ感染も懸念される中でしたが、申し込みが相次ぎお断りした方もある状況でした。減多にないうれしい悲鳴の事態で、これは東毛地区の世話人による、行政との連携も含む日ごろからの丁寧な広報の成果と言えます。

当日は太田市だけでなく、館林、伊勢崎からも参加者があり、7 名が熱心に学び、また交流を深めました。

2 月前橋会場では、高崎、藤岡からも含め 4 名の参加者で開催しました。開催後、参加者の方から講師の人柄から、的を射た話、本人の思いに気付かされる指摘など、多くの学びがあり、帰ったその日の支援に役立てることが出来た、また参加したいとの言葉をいただきました。

● 杉山孝博先生の医学基礎知識講座開催（1 月 30 日）

杉山先生の講座をオンラインで開催しました。オンラインは初めてではありませんが、参加費やレポートの提出などの要素が加わり、やや不安もありました。しかし、SNS に強い世話人が力を合わせ、大きな混乱なくやり遂げることが出来ました。参加者のレポートもしっかり記載されており、学びが得られたことが伝わってきました。また一つ今後のために力を得ることが出来ました。



SNS 担当の一人
山口怜生世話人
背景は本部提供

編集後記

朝、久しぶりに雪景色を美しいと思ひ、見る事が出来ました。

昨夜総理の記者会見がありました。が、新型コロナウイルスで呻吟して

いる救急医療や高齢者施設、私たちの生活上の緊張感とは全くかけ離れていました。注意すれば普通に生活できる日よ、早く来い。（田部井）

